

ヒロシマ ユネスコ

ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
 すべての人間の尊厳を重んじよう
 教育・科学・文化の発展に努めよう
 民族間の疑惑と不信を除こう
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

機関紙創刊に当たって



広島ユネスコ協会名誉会長

広島市長 荒木武

ヒロシマの体験を生かそう

ユネスコは、第二次世界大戦中、イギリスに亡命政府をおいたヨーロッパ各国の文部大臣がロンドンで連合国文部大臣会議を開き、人類がふたたび悲惨な戦争を繰り返さないためには、教育の普及、科学の発達、文化の相互理解をつうじて、世界の

人々とのあいだのさまざまな誤解や偏見をとり除き、国際理解と協力の心を築くことが大切であると、話し合ったことから始まるというように聞いております。
 不幸にして、わが広島市は、第二次世界大戦によって、世界最初の原爆の惨禍をこうむり、一瞬にして二十数万の犠牲者を出し、生き残った被爆者も病苦と生活苦にさいなまれながら、この三十年間を打ちひしがれ、辛苦の中で生き長らえてきました。広島市民は、この悲惨な原

爆体験にもとづき、世界のいづれの国にもふたたびあの戦争の悲劇を繰り返してはならないと誓い、世界に向かって恒久平和の実現を訴え続けてきました。

戦争の惨禍を身をもって体験した広島市民の中から、ユネスコ運動の意義が改めて問い直され、このたび、関係者のご努力が結実して、広島ユネスコ協会が設立されました。そして、ここに、希望の機関紙創刊号が発表されますことは、まことに喜ばしいことで、心からお祝いを申しあげます。

私たち人間にとって一番大切なものは、人間の生命でありましょう。しかし、誰もが大切に思い、あらゆる努力を重ねて守ろうとする生命が、戦争の前には何ともろいものかということ、私たち広島市民は痛切に思い知らされています。戦争の惨

苦と罪惡とをもっとも深く体験し、自覚するもののみが、苦悩の極致として戦争を根本的に否定し、もっとも熱烈に平和を希求するものであります。

この意味におきまして、広島ユネスコ協会が、「心の中に平和の守りを固め、世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう」というユネスコ会員綱領を率先垂範され、世界でもユニークな国際平和文化都市広島市の市民としての自覚のうえに立ち、単なる仲よし運動としてではなく、真のユネスコ運動を展開され、ヒロシマの体験を生かした国際理解に役立つたためのご努力を期待するとともに、広島ユネスコ協会が今後ますます発展され、日本のユネスコ運動をリードされる立場に成長されるよう、心から祈念して私のごあいさつといたします。

ます。

広島ユネスコ協会 50年度役員

- ▽名誉会長 荒木武 (広島市長)
- ▽会長 永井滋郎 (広島大学教授)
- ▽副会長 信井正行 (広島市教委社会教育課長)
- 松原博臣 (広島県医師会常任理事)
- ▽事務局長 末野忍 (中央図書館資料奉仕課長)
- ▽教育活動担当常任理事 山崎克洋 (広島市教委)
- ▽企画担当常任理事 藤本嘉一 (福井建設企画室長)
- 井建設企画室長
- 文化活動担当常任理事 加藤明一 (広島女子商高校長)
- ▽国際交流活動担当常任理事 深崎敏之 (皆実高)
- ▽広報担当常任理事 高橋昭博 (広島市広報課主査)
- ▽理事 田中登志子 (メガネの田中社長)
- 北川建次 (広大助教)
- 授、藤井千之助 (同)、江川琢也 (広島市教委社会体育課長)、齊藤清三 (広島県教委社会教育課長補佐)、太鼓矢晋 (広大付高)、瀬見博明 (日本交通公社)、俣野仁一 (俣野耳鼻科医院長)、松岡盛人 (青年部長)、深瀬文恵 (同副部長)
- 守本寿男 (同) 監事 古田碩永 (広島市教委)、徳永敏子 (主婦) 顧問 内海 巖 (中央図書館長)

広島ユネスコクラブから広島ユネスコ協会へと発展して、ここに第二周年目を迎えた。この間において、昨年十月五日には

創刊にあたって

ユネスコの輪を広げよう

広島ユネスコ協会会長代行 内 海 巖



広島県ユネスコ連絡協議会が創設され、広島ユネスコ協会はその有力な仲間の一員としてこれに加盟した。また、去る六月十四日から十六日まで、因島市民会館を主会場として、第三十一回日本ユネスコ運動全国大会が開催されたことは、会員一同の記憶にあらたなところである。

この全国大会には、多数の会員が参加され、大会の運営に参画され、協力されるばかりでなくシンポジウム「人類存続のためにわれわれは何をなすべきか」に参加され、それぞれの分科会討議において積極的に活動された。この全国大会を通じて、広島ユネスコ協会会長・永井滋郎氏は、総合司会者としてすばらしい成果をあげられた。このようにして、広島ユネスコ協会の存在は、全国のユネスコ運動参加者の心に強く印象づけられたのであった。

私は、会員各位のご協力とご活動に対して心からお礼をのべる。

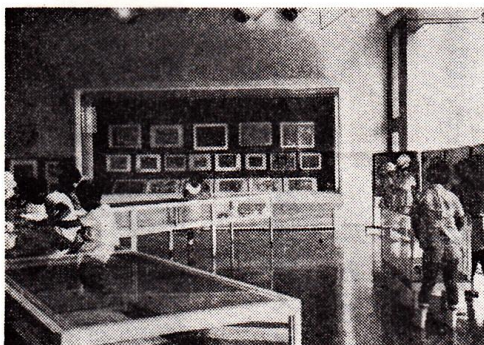
このような広島ユネスコ協会の飛躍の時期にあたって、その機関紙の創刊を実現することができたことは、まことに欣快とするところである。編集担当の各位のご努力に感謝を申しのべる。

しかしながら、広島ユネスコ協会は、いまだ創業期にあることを忘れてはならない。広島県ユネスコ連絡協議会の第一級のメンバーとして、その組織を確立し、その活動内容を充実させ

会員増加、財政基盤の確立が課題

まず、第一は、会員の増加をはかることである。広島ユネスコ協会ならびに同青年部の最近の諸事業、諸活動は、新聞やテレビに報道され、広く市民の認識を得るようになった。また、その諸事業や諸活動の内容および成果が次第に市民の注目をうけ、高い評価をうけるようになる。

子どもたちにも国際理解を……とし九月に開催した世界の児童画廊



ていくためには、なお、多くの課題をもっていることを銘記すべきである。以下においてこれらの課題についての私の見解を披れきし、会員各位のご理解を得たいと思う。

つたことは喜ばしいかぎりである。この機会を逸することなくユネスコに関心をよせ、好意を示される人々に呼びかけて、ユネスコ運動に参加してもらおう道を開き、ユネスコの輪を拡げる努力を精力的に続けることを、会員各位の責務としてうけとっていただきたいものである。

第二には、協会の財政面の強化をはかることが急務である。ユネスコ運動は、本来、ボランティア活動として発展してきた歴史をもっており、現在においてもその本質としては、奉仕精神に基づく運動であることは、改めていうまでもない。しかし協会としての組織活動を発展させるためにも、その組織の維持ならびに他の組織体との共同事業の運営のためにも財政的基盤の確立が必要であることは、他の組織体の場合と全く同様である。会員数の増加をはかることが、この点に深い関連をもつ

ていることはいうまでもないが協会の事業活動の面からも考慮すべき問題があることを指摘したい。最後に、ユネスコ運動の基本的課題について真剣な討議を期待したい。因島における全国大会で解明された諸問題を、各自の課題としてうけとめ、その課題解決への方法論の追求と、市民的運動のための組織化の方策に関する検討は、今日以後のユネスコ運動の性格を左右すること深くかかわっているからである。

永井会長の長期海外出張の間その責任を代行することを委嘱された私として、以上の私見をのべたことに対し、会員各位のご寛恕をお願いする。
(顧問)

会費の納入を

今年度の会費 (2,000円) と 新聞購読料 (640円) をまだ納入されていない会員のかたは、広島銀行普通預金口座「246846広島ユネスコ協会会長永井滋郎」へ、お近くの支店、本店にて振り込んでください。



S49.6 京都国際会館におけるユネスコ全国大会

広島ユネスコ協会は、昭和四十八年六月二十三日に産声をあげ、すでに二周年を経たこの間、種々の事業を通してますますユネスコ活動の重要性を再認識させられた。

ここでは、これまでの広島ユネスコ協会のあゆみを紹介し、今後の活動の参考としていただきたいと思う。

なお、広島市においては、すでに昭和二十四年に広島ユネスコ協力が結成され、かなりの実績をあげながら、昭和三十五・六年ごろに自然消滅している。

読者のみなさんには、この「協力会」以後の経過を紹介すべきと思うが、資料が散逸し、現状では、それを知るすべがないので、今後の調査をまって、別の機会において紹介することとしたい。

昭和四十八年度

六月二十三日 広島ユネスコクラブ発会式 (於キリンビヤホール) ◇七月二十八日 映画鑑賞「ポロブドール遺跡を残そう」講演会「広島におけるユネスコ活動とそのあり方」(広大教授・沖原豊氏、於平和記念館) ◇八月八日 韓国青年との交歓会 (於国際ホテル) ◇八月二十六日 県内ユネスコ協会懇談会 (府中、因島、広島出席、於国際ホテル) ◇九月二十三日 ユネスコ青年部交歓会 (今治、因島、府中、尾道、広島出席、於青少年センター) ◇同 県ユネスコ連絡会準備会 (於中央公民館) ◇臨時総会、講演「西ドイツの青少年活動」(山崎克洋氏、於ムシカ) ◇十月二十三日 YMC A 国連フェスティバル参加 ◇十一月十一日 県ユネスコ協会連絡会発足 (於中央公民館) ◇十一月十九日 韓国ユネスコ青年七名受け入れ ◇十二月五日 講演「ユネスコの集い」(内村直也氏、中国新聞ホールにおける県・市教委主催事業に合流) ◇四十九年一月三十一日 講演「ユネスコ国際会議に出席して」(内海巖・永井滋郎氏、於中央

広島ユネスコ協会のあゆみ

公民館) ◇二月二十六日 講演「国際平和文化都市ヒロシマの理念」(山田節男広島市長、於RCC文化センター) ◇三月二十七日 講演「東アフリカに見てある記」(秋信利彦中国放送報道部員、於平和記念館) 【役員】 △代表理事 土橋訓之 (観音高) △副代表理事 山崎克洋 (広島市教委)、横山伸子 (坂小) △理事 太鼓矢晋 (広大付高)、森山弘子 (宇品中) 高橋昭博 (広島市役所)、田口周治 (同)、瀬川勉 (NHK) 水野文隆 (青少年センター)、本ユネスコ運動全国大会へ六名派遣 (京都市) ◇七月三十一日 創立一周年記念事業・フランスユネスコ青年歓迎レセプション、総会 (広島ユネスコ協会) と名称変更し、協会連盟加盟承認される。於福屋百貨店 ◇九月二十日 ユネスコ講座「東南アジアと日本」全十回講座開講 (青少年センター) ◇十月五日 県ユネスコ連絡協議会発足 (会長・内海巖、於青少年センター) ◇十月二十八日 国内委員会主催・ユネスコ活動指導者アジア・ヨーロッパ研修に藤本嘉一郎を派遣。

理事参加 ◇十月三十一日 「ユネスコを知る会」(講演・永井滋郎会長、その他映画、留学生との交歓、於平和記念館) ◇十一月十六・十七日 ユネスコ青年セミナー (於府中町青少年文化センター) ◇十一月二十八日 日本ユネスコ協会連盟加盟 ◇同 青年部結成 ◇十二月六日 映画鑑賞「韓国リトルエンジェルズ」(於平和記念館) ◇昭和五十年二月二十日 学習会「私たちのユネスコ」(深瀬文恵青年部副部長)、「青年部今後の方向」(松岡盛人同部長)



S49.7 フランスユネスコ青年を迎えての2周年行事

「国際理解教育最近の情勢」(永井滋郎会長、於平和記念館) ◇三月二十六日 協会連盟主催、中学・高校生のためのヨーロッパ移動講座へ深瀬文恵青年部副部長を派遣。

【役員】 △会長 永井滋郎 (広大大教授) △副会長 山崎克洋 (広島市教委)、森山弘子 (宇品中) △常任理事 太鼓矢晋 (広大付高)、谷原久資 (広島市教委)、齊藤清三 (広島県教委)、藤本嘉一 (福井建設)、高橋昭博 (広島市役所)、深瀬敏之 (皆実高) △理事 水野文隆 (青少年センター)、瀬川勉 (NHK)、中野良彦 (広島大学学生) △事務局 長 古田碩永 (広島市教委) △事務局 員 木村敏子 (微妙幼稚園)、中島節子 (広島) △監事 山中善和 (RCC)、北川建次 (広大大助教授)



太鼓矢理事、東南アジア・ヨーロッパへ

当協会の太鼓矢晋理事(広大付高教諭)は、広島市教委の推せんにより、文部省主催「昭和五十年度ユネスコ活動指導者海外派遣」に参加される。

同派遣事業は、全国のユネスコ活動指導者八名参加のもとに東南アジア、ヨーロッパ各地におけるユネスコ事情の視察とユネスコのあり方の究明を目的と

して開催されるもの。

一行は、十一月二日に羽田を出発し、十一月二十六日に帰国するが、とくに、フランスではユネスコ本部にも立ち寄る予定であり、太鼓矢氏の研修の成果が大いに期待されることである。

なお、当協会としては、昨年藤本嘉一理事をこの事業に派遣しており、二年連続派遣は、全国でも異例のことである。

ヒロシマ国際アマチュア映画祭作品鑑賞会を開く

広島ユネスコ協会では、去る九月二十八日、広島県立美術館ここに一つの世界を味わいたいその夜、入会の申込みをした。

広島は国際的に特別の都市である。戦後三十年、市民のもつめるものが、いろいろの団体を通じて世界に示されてきた。も

お母さんの活動を期待する

えるような運動となつて毎年繰り広げられてもいる。

広島におけるユネスコ協会の運動は、また独自の進み方があるべきであろう。協会青年部においては、真剣な探究が行われているようである。今夏、因島大会における永井文相の祝辞の

講堂において、中国放送、中国小型映画連盟と共催で、「ヒロシマ国際アマチュア映画祭作品鑑賞会」を開いた。

これは、この八月に、日本ユネスコ協会連盟、中国放送、広島市などが主催して、世界各国へ平和と生きることの尊さをテーマに、アマチュアから映画を募集したものの中から、ヒロシマ・グランプリ、広島市長賞、日本ユネスコ協会連盟会長賞などの優秀作品六本を上映したものである。

会場は、百三十人の会員、一般市民で満員となったが、RC中の、まず小さなことの実行からという呼びかけは注目すべきものだろう。

先般の青年部による国際児童画展の準備には、閉館後の暑さのきびしい中央図書館で一級の

展示会にしようとの熱意が溢れていた。

民間の運動なのだから無論ボランティア活動である。だが、ロータリーにもライオンズにも見られないものがユネスコの運動にはあるように思われる。活動の領域も広く、多彩である。

Cの浅井万里子アナウンサーの流麗な司会のもとに、参加者は世界のトップレベルにあるそれぞれの作品に陶醉していた。

とくに、ヒロシマ・グランプリの「ふたりぼっち」は、観覧者の胸に強く感銘を与え、涙を流す娘さんもいたようである。

なお、この鑑賞会は、東京をはじめとして、各地の協会で開催されるが、広島ユネスコ協会はこれにさがけて行なったものである。

世界の児童画・写真展が好評

青年部は、去る九月二日から

そこにひとすじ通っているものは、常にあかるく豊かな未来への志向、そのために今ある人間

——われわれの向上が求められるということだと思ふ。生涯教育がユネスコによって提唱されるのも、ここに発しているのであるうし、ユネスキャンの誇りと喜びを私はここに求めている

わが協会のメンバー必ずしもその数多しとしない。若い人々が発展することが何よりも重要なことだが、広い視野を求め、年配のお母さん方が国際理解を中心とした教育研究活動を展開されるようになれば、どんなに素晴らしいことだろう。(常任理事)

広島市立中央図書館において、「世界の児童画展・世界の子ども日本の子ども写真展」を開いた。協会連盟から借りた三百点に及ぶ作品は、観覧者の目をひき、大変好評であった。

会場の片すみに用意した「あなたも絵を描いてみませんか」というスケッチブックも、十二冊びっしりと埋まり、一般市民のこの種の催しに示す関心の強さを示したものと見えよう。

青年部では、国際理解のためこのようにした企画を改めて認識し今後こうした行事に力を入れてゆく方針。

中国ブロックユネスコ研究会開かる

日本ユネスコ協会連盟は、今年度から、ブロック別の研究会を開催する方針をうち出したが中国ブロックでは、十月十八日から二日間、鳥取市で開かれた

当協会は、山崎克洋教育活動担当常任理事を派遣した。国際協調の時代に入った世界情勢にあつて、ユネスコ協会が地域性の自覚のもとに、その使命を担うために開かれたこの研究会の成果は、今後の当協会の活動の一つの指針となることが期待される。

素晴らしいことだろう。(常任理事)